

葛城市(仮称)當麻複合施設 設計概要書

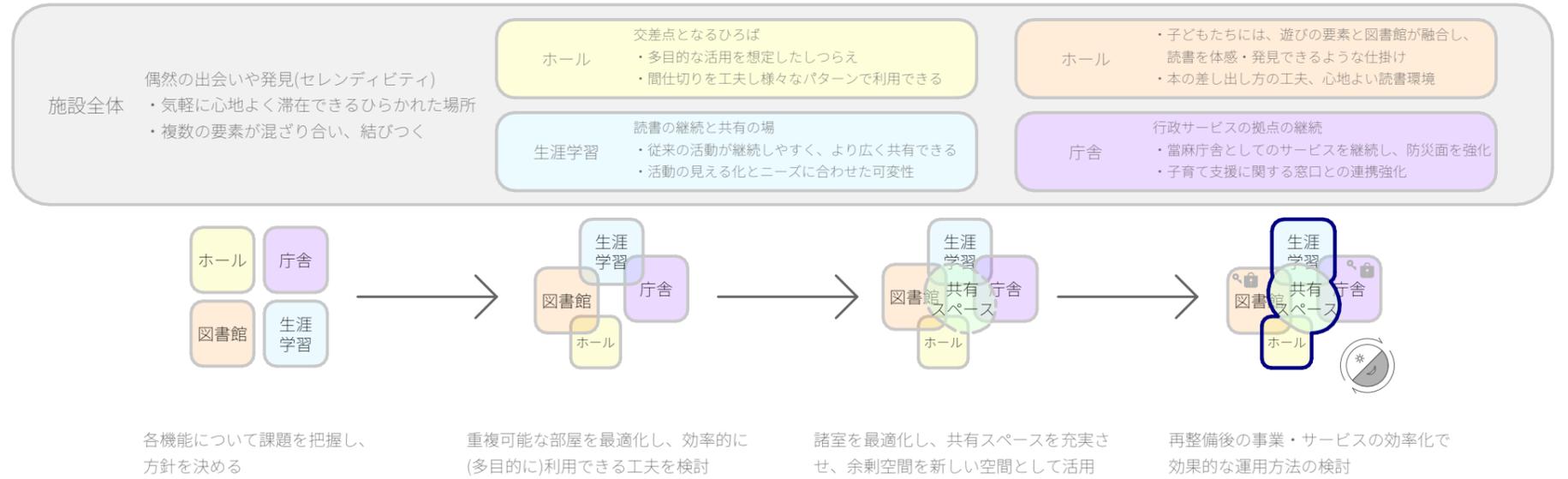
令和7年3月

葛城市

設計概要

1-1. これまでの経緯

葛城市当麻複合施設整備基本計画（以下「基本計画」という。）では、市民アンケートやワークショップ、パブリックコメントや市議会特別委員会での意見を踏まえ、新しい複合施設が目指すあり方を整理しました。地域の子どもたちやまちの大人たちが共に使いやすく、ゆっくり時間が過ごせる場所であることをコンセプトに、1つの施設に複数の機能を共存させるための最適化・効率化の方針について必要事項を示しています。設計段階では、基本計画を反映した具体的な機能・サービスの配置について検討を深めています。



1-2. 施設整備方針

葛城市当麻複合施設整備基本計画（令和5年）において、施設整備の基本方針として、次のとおり整理しました。

大きく三つのテーマに分けて方向性を定め、計画を検討するための軸とします。この三つの軸に基づき、効率的に効果を発揮する項目を中心に長寿命化対策を実施する計画とします。

<多様性>

子どもたちを始め、様々な人々がお互いに特別に区別されることなく、気軽に安心して活用でき、心地よく滞在できる施設とします。

<柔軟性>

新しく自由度の高いニーズに対応しつつ、完成後もニーズの変化に合わせて用途や機能、間取り、改修に対応可能な柔軟性や融通性を確保します。

<施設管理>

未来の50年を見据えた複合化・長寿命化により行政サービスを継続し、今後の公共施設マネジメントの道しるべとなる施設とします。

①様々な来館者やシーンを想定した空間構成

- ・スペースの再構築と有効活用
- ・諸室の活動の見える化
- ・ユニバーサルデザイン化
- ・木質化と緑化
- ・市民活動や子育てをサポートする空間
- ・様々な人を対象とする設備
- ・メンテナンス性の向上
- ・複合施設ならではの管理・運営

②老朽化対策

- ・屋上防水の改修
- ・外壁の改修
- ・給排水設備の更新
- ・ホール設備の更新

③エネルギー利用方針

- ・行政マネジメントによる削減
- ・既存躯体の活用による廃棄物、CO2排出量削減
- ・自然の力の活用
- ・断熱・遮熱対策
- ・再生可能エネルギーの活用
- ・電気・機械設備の更新
- ・エネルギー消費量の適正な管理

④防災・BCP対策（詳細は設備概要書を参照）

- ・最低限のライフラインの確保（発災後3日間程度）
- ・自然光、自然換気ができる計画
- ・非常用発電機（規模の検討を含む。）
- ・太陽光発電機の設置
- ・非常用汚水槽の設置
- ・受水槽等による水の備蓄
- ・衛星電話の移設

⑤耐震性能向上

- ・構造体Ⅱ類、建築非構造部材A類、建築設備甲類

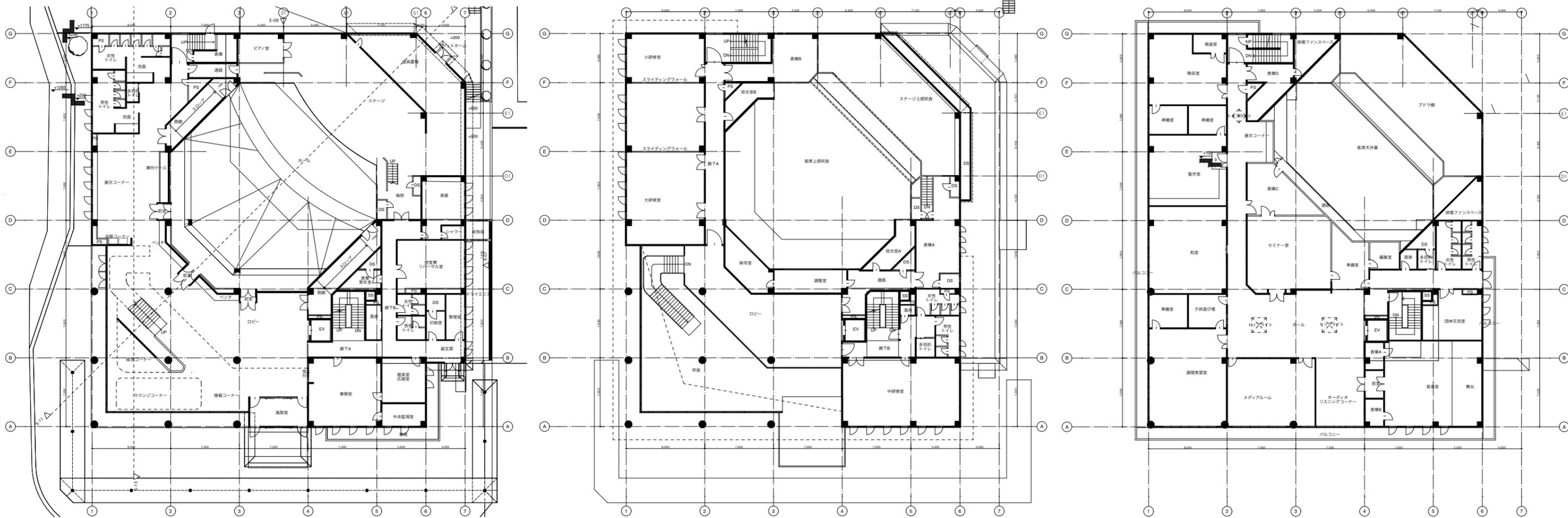
2-1. 敷地および現況建物の概要

所在地 : 奈良県葛城市竹内256-9
 敷地面積 : 2,276㎡
 区域区分 : 都市計画区域内
 都市機能誘導区域内
 用途区域 : 第一種住居地域

建ぺい率 : 60%
 容積率 : 200%
 防火地域 : 法22条地域
 その他地域区域 : 埋蔵文化財包蔵地
 高さ制限 : 15m

構造 : 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
 高さ : 13m
 竣工年 : 昭和63(1988)年
 階数 : 地下1階/地上3階(塔屋付)
 延床面積 : 3,554.8㎡(リハーサル棟含む)

(リハーサル棟)
 構造 : 鉄骨造
 高さ : 4.8m
 竣工年 : 昭和63(1988)年
 階数 : 地上1階建



2-2. 長寿命化計画

・躯体補修

30年超を経過した躯体は劣化が進行していると予測され、また、建設当時の施工不良もある程度存在することが予測されます。これらの箇所を適切に補修することで、躯体本来の性能を発揮するだけでなく、新たに設ける耐力壁が効果を発揮することができるようにします。



内装解体後に躯体の状況をチェック



劣化箇所(例)補修前



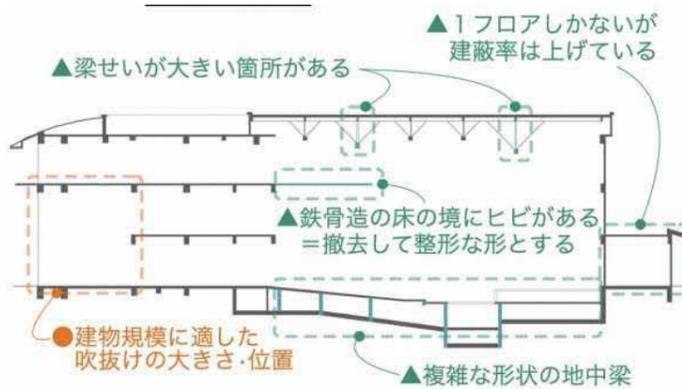
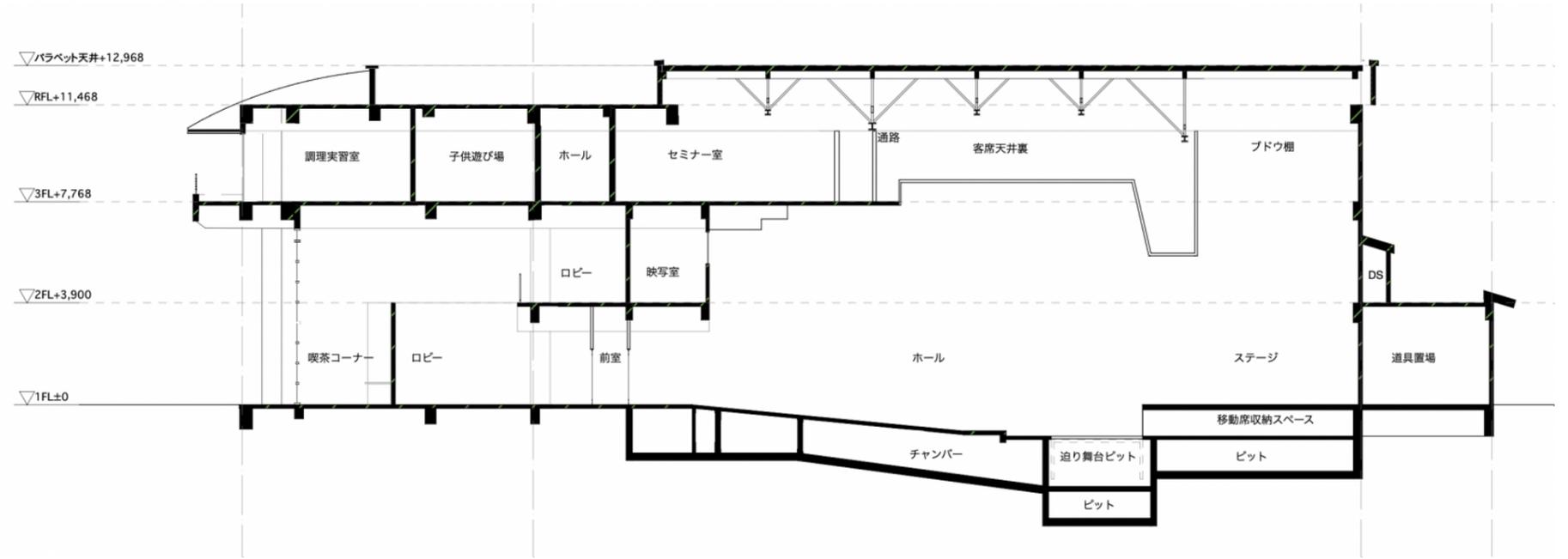
補修後

2-3. 増築

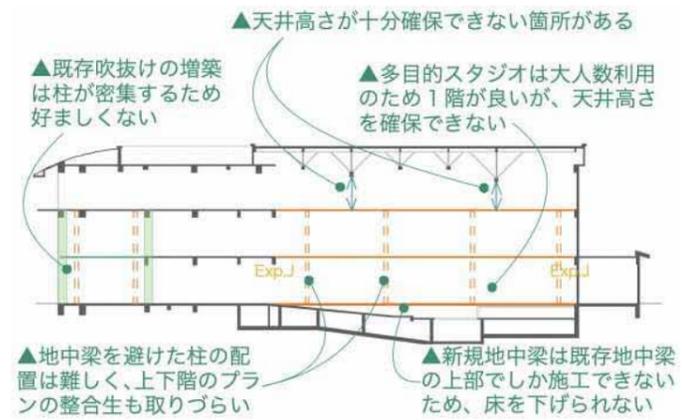
基本計画において、ホールの面積の最適化、用途が追加されることによる増築の必要性について整理しました。

既存建物は、ホール特有の構造形式となっているため、その特性に合わせた増築方法を検討しました。ホールの大きな吹抜け空間を生かした屋内増築部は、中2階の高さに設けることで適切なサイズの多目的スタジオを1階に、その上部(中2階)に図書館を配置し、1~3階と中2階が立体的に交わるスキップフロア状の構成としました。

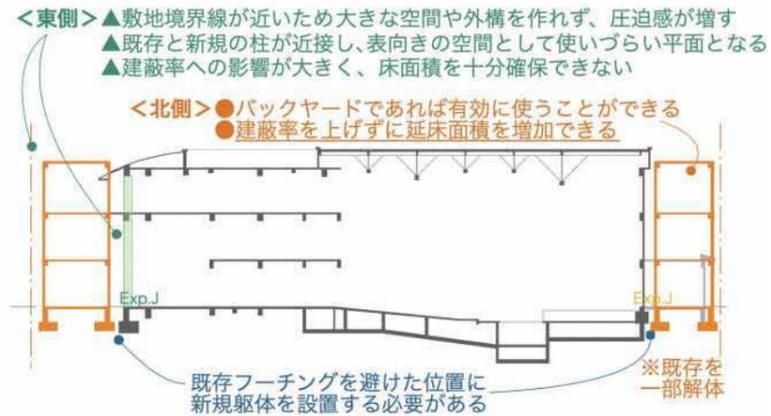
残りの増築は北側の屋外面とし、書庫や庁舎関係の諸室を配置することで限られた敷地を有効に利用します。道路側には圧迫感を出さないように、増築は最小限としています。



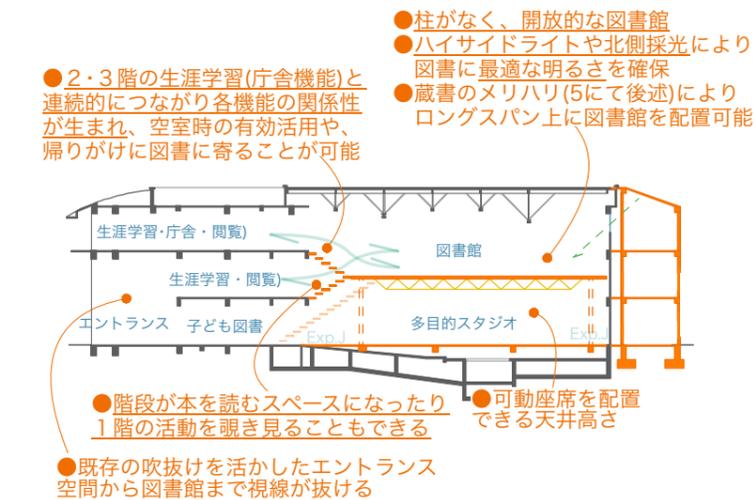
①全体の面積(建蔽率)に関わるもの、大梁や地中梁のうち空間の大きさや増築方法に影響のあるもの等、既存建物の特徴を熟知し、条件を整理します。



③屋内増築3層のみで床面積を確保すると、左図の通り様々な問題が発生し、3層では不利であることや、既存ホール部は既存・新規の地中梁の取合いの都合から、無柱空間(ワンルーム)が適していることがわかります。



②屋外・屋内に関わらず、増築部は既存部と構造的に分離した別棟とし、既存部は現行法遡及しないこととします。左図より、東側の増築は不利ですが、北側は有利であることがわかります。



④ ②・③の結果より、屋内2層、屋外は北側増築のハイブリッドとし、建蔽率の上限以内で面積を効率良く確保します。さらに2階の床を中間階に引上げることで、多目的スタジオの天井高さを確保し、さらに図書館フロアと各階の連動性が生まれるようにします。必然的かつ効率の良い増築により、既存ホールの形に馴染んだ、多様な空間をつくることができます。

2-4. 空間コンセプト

中2階をつくることで各階の空間が混ざり合い、偶然の出会い（セレンディピティ）を生み出すことができます。葛城市らしい複合施設のあり方、それを実現させるための要素を、空間コンセプトに落とし込みました。

【葛城市らしい複合施設の実現】

基本計画に掲げる整備方針の具現化に加え、複合施設としてのさらなる魅力の向上を図るため、市の「地理的特性」や「まちづくりの考え方」を建築空間に反映させ、葛城市らしい複合施設を目指します。

【地理的特性】

- ・ 国宝を携える當麻寺や相撲発祥のゆかりの地など、歴史と文化が深く息づいた周辺地域
- ・ 緑豊かな山々や丘陵に囲まれ、奈良盆地が一望できる山の周辺の立地
- ・ 日本最古の官道である竹内街道や當麻寺参道など、歴史的町並みと路地が織りなす美しさ

【まちづくりの考え方】

「立地適正化計画」
高齢者をはじめ誰もが自立して生活できる安心
・ 安全で賑わい・魅力のある地域づくり
「都市再生整備計画」
市民ニーズを踏まえた複合施設整備による拠点形成を通じた、集い・憩いの場づくり
↓
今後も住み心地良く、生涯にわたって暮らしてもらうことを方針とし、地域に根付いた文化やコミュニティを守る担い手として、高齢者をはじめ子育て世代を含めた誰もが自立し、支えあう中で安心して住み続けられるよう、地域に開かれた市民活動の場を設ける。

【建物空間に取り入れる要素】

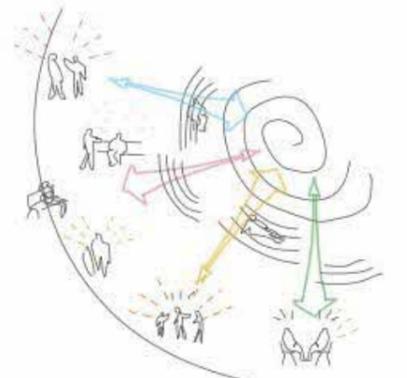
- ・ 国技化の土俵のような、来館者の一体感を生み、施設の核となる空間デザイン→〈ひろば〉
- ・ 葛城市の街並み、路地、坂道、石段、井戸端のイメージを取り入れた、まち歩き・散策・寄り道を誘発するしつらえ→〈みち〉
- ・ 多様なしつらえの中をつなぎ、来館者の新たな居場所・学び・活動・出会いを創出する空間づくり→〈かけはし〉
- ・ 奈良盆地の山々の稜線や街並みが覗く、見晴らしの良い景色を取り入れた、ゆっくりとした時間の流れを感じる、居心地の良い居場所づくり→〈まち〉

【建物全体のコンセプト】

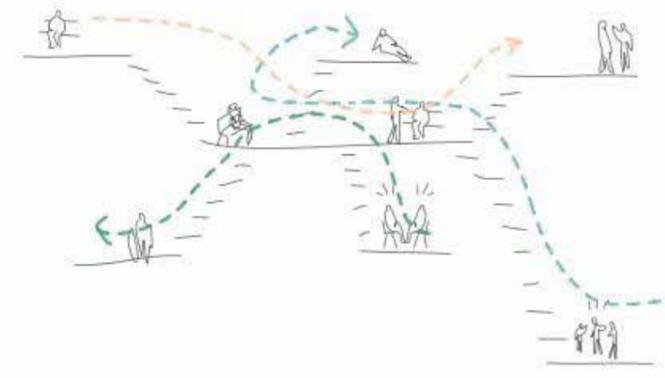
基本計画の反映及び葛城市らしい複合施設の実現に向けた建築コンセプトを以下の通り定め、各フロアのレイアウトに反映します。

「ひろば・みち・かけはしが奏でるみんなのまち」

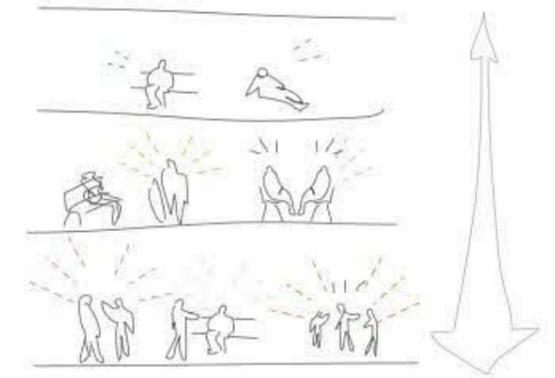
- 〈ひろば〉 改修前のホールは、気持ちよく施設全体を見渡せる「ひろば」とし、来館者の一体感を生む、大きな結節点の役割へと生まれ変わらせます。
- 〈みち〉 歴史街道のように、めぐり歩く「みち」を配することで、来館者は変化に富んだ館内の様子に誘われつつ、自分の居場所を散策することができます。
- 〈かけはし〉 「ひろば」を囲む階段は、すべてのフロアをゆるやかにつなぐ「かけはし」となります。見晴らしの良い「ひろば」を介し、フロアの異なる「みち」を「かけはし」がつなぐことで、来館者の散策範囲が館内〈まち〉全体に広がります。



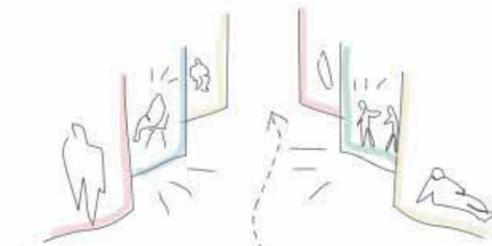
〈ひろば〉
興味を引き寄せたり放ったりする、中心的空间がある



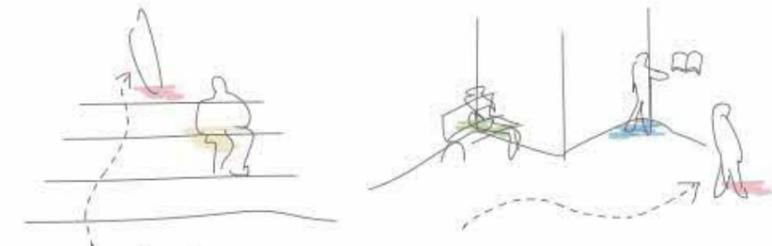
〈かけはし〉
自由に行き来でき、興味がつながる



〈まち〉
賑やかさと落ち着いた空間が共存する

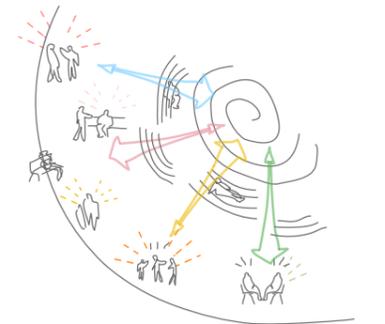


〈みち〉
歩くだけで色んなことに興味湧いてくる

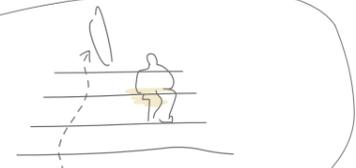


〈みち〉
自分の好きな場所を選んで、自由に過ごす

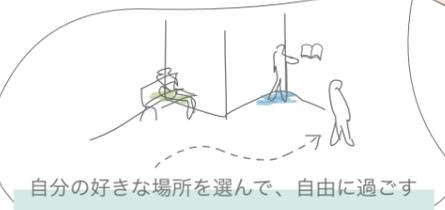
街に住むみんなが気軽に訪れ、気がつけば何かを読んでいたたり、
 新たな気づきを得られたりできる気持ちの良いひらかれた場所。
 そんな空間と時間をつくりたいと考えています。



興味を引き寄せたり放ったりする、
 中心的な空間がある



自分の好きな場所を選んで、自由に過ごす



自分の好きな場所を選んで、自由に過ごす



求心性のある国技館のような場所



ひろば

みち

かけはし

ふらっと腰掛けて佇む



風景から学ぶ



開放感



溜まりの空間



講座



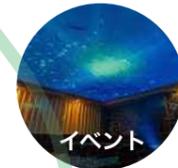
グループワーク



音楽



読書



イベント



レファレンス



居場所



活動の様子が連なる



本との出会い

路地を歩く

シンボルを眺める



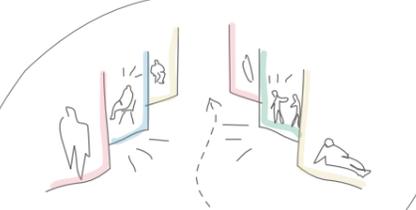
マルシェ



キャー



コーヒー



歩くだけで色々なことに興味湧いてくる

広場でゆったり



雨でも遊べる



会議



陶芸



工作



手続き



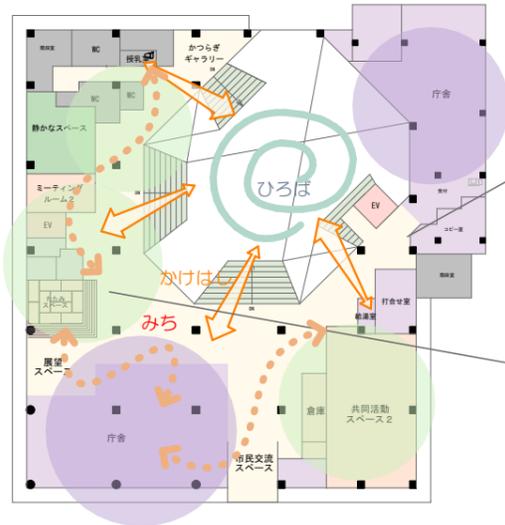
アート

盆地を眺める



2-5. ゾーニング

3階

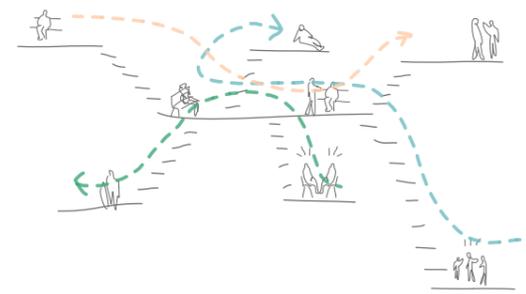


政

一つの窓口で多くの手続きが可能となった総合窓口を軸に、行政の相談窓口を集約し、落ち着いて手続きができる場とします。

癒

これまでの機能確保に加え、まちの大人たちにとって、普段とは異なる時間の流れを感じられるような、居心地のよい癒しの場づくりを意識します。

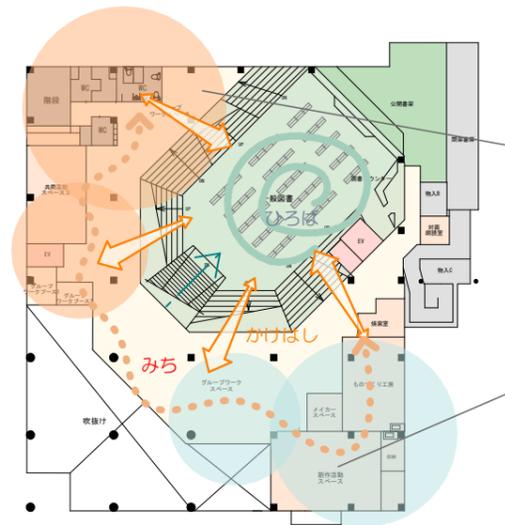


自由に行き来でき、興味がつながる



賑やかさと落ち着いた空間が共存する

2階



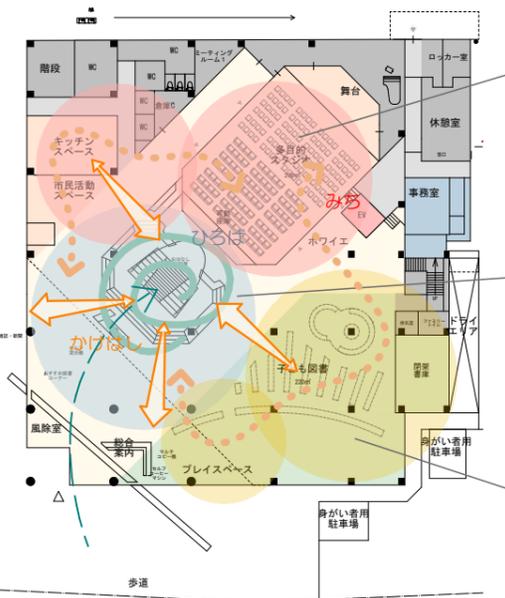
学

様々なものが吸収できる学生たちの居場所について改めて考え、新たな気づきや仲間・まちとのつながりが得られる場を新設します。

創

生活をいっただい豊かにする創作や芸術活動を身近に感じ、誰もが参加しやすいと思える運営に応えられるよう、情報共有を意識した場とします。

1階



活

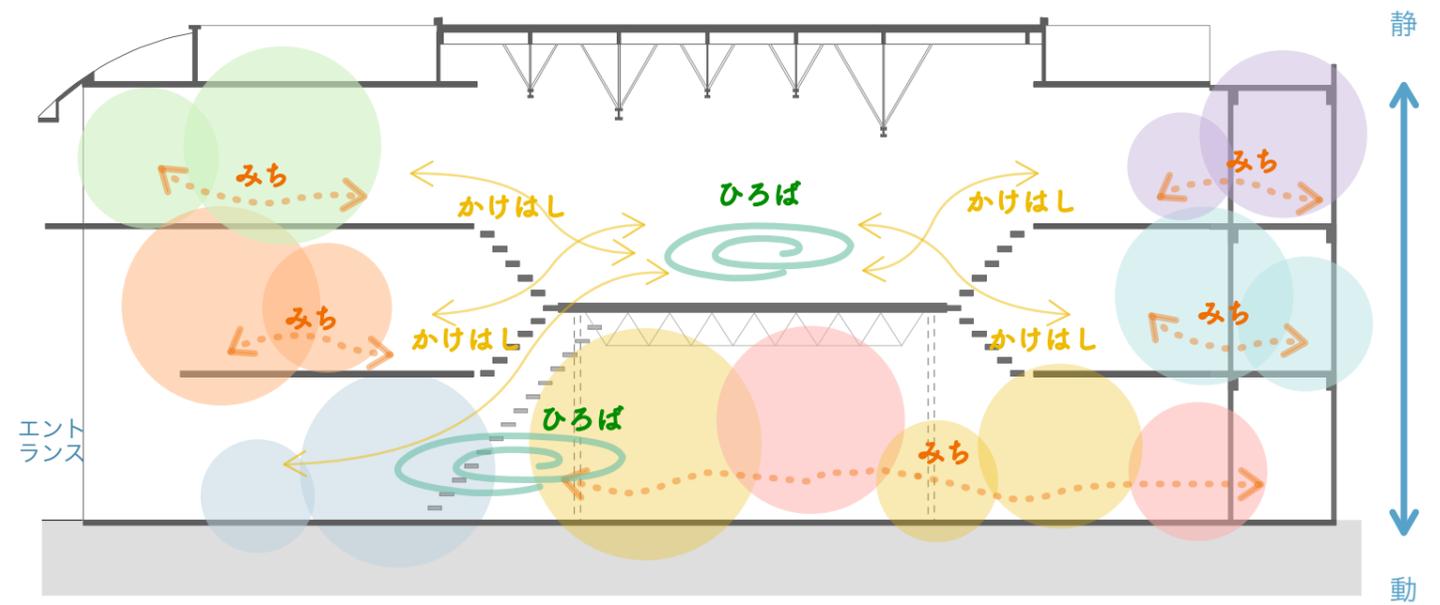
空間の変容性や防音設備にも配慮しつつ、あらゆる自由な活動を支え、まちの活力あふれる様子が肌にも感じられる場とします。

迎

まちに住む皆が気軽に訪れたいような、気持ちの良いひらかれた場を目指し、様々なヒト・モノ・コトを迎え入れる場とします。

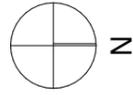
育

これからの子どもたちが、成長に応じた学びの場と結びつきを保てるよう、愉しむことができる環境を入口に、全館を通してまちの大人と共に育める場とします。



2-6. 平面図

1階

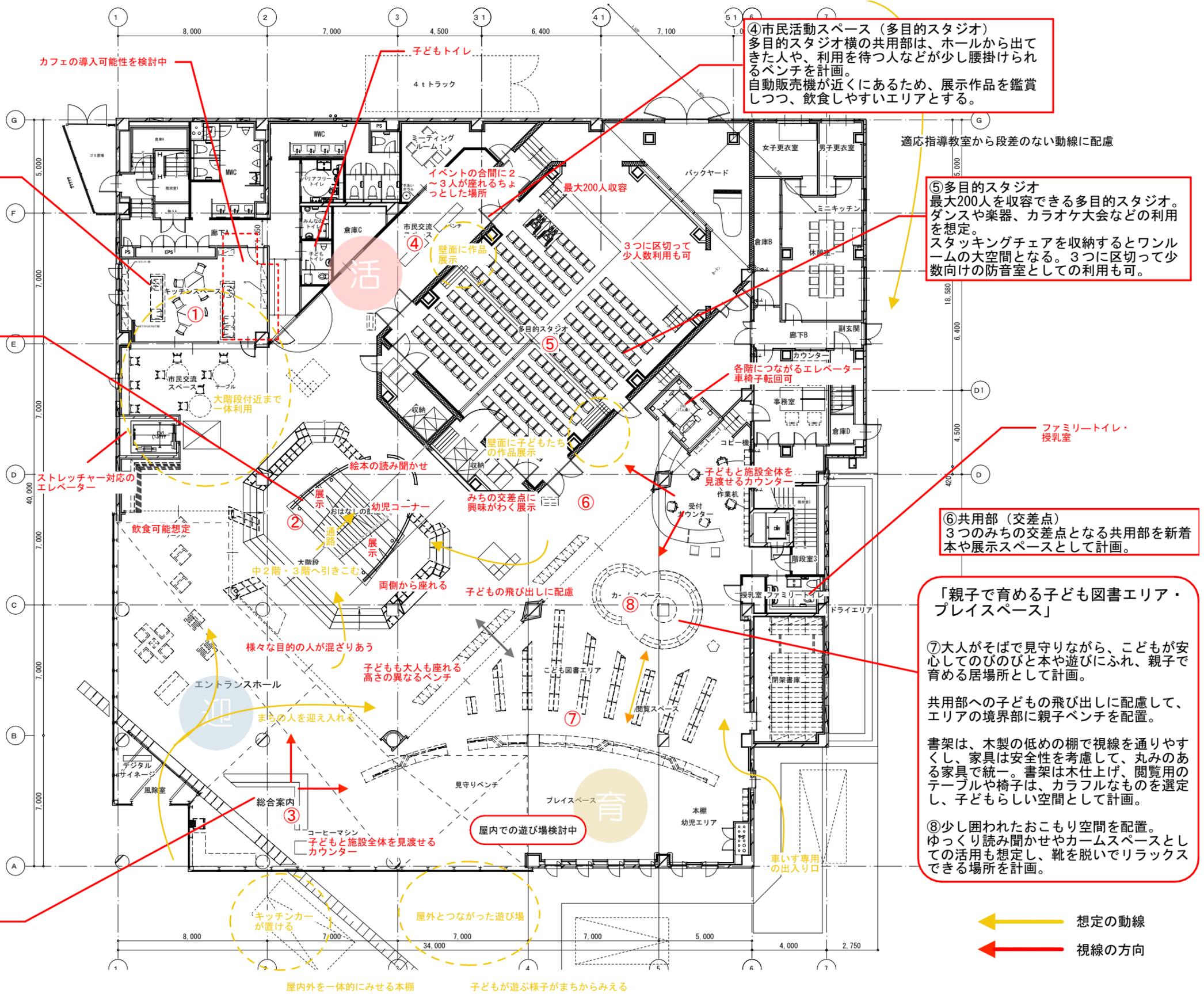


①キッチンスペース／市民交流スペース
料理教室や食育にも使えるキッチンスペースは、飲食可能なスペースとして利用でき、市民が放課後や仕事終わりに気軽に立ち寄れる居場所として想定。イベント時には、大階段付近まで一体的に利用したミニイベントスペースにもなる。

②大階段
人を中2階・3階へ引き寄せるといったシンボリックな大階段。階段両端は、展示スペースとして活用でき、本や写真などの展示物を置く想定。階段下は、絵本の読み聞かせが行われるおはなしの部屋を計画。

「だれもが立ち寄りやすい温かみのあるエントランス」
中の様子がうかがえるガラス張りのエントランスは、中と外をつなぐ本棚ゲートが施設を訪れる人を誘う。元気な子どもたちの様子を感じながら気軽に腰掛けられるベンチには、本棚や展示が一体となっており、複合施設の最大の特徴である、偶然の出会いや発見が体感できる。
ゲート書架（エントランス）
屋内外を一体的に見せ、中の機能が飛び出したような本棚。まちの人が施設に興味を持ち、本の世界に迎え入れるような体験ができる。本棚には、写真などの展示することを想定。

③総合案内・受付カウンター
大人が安心して子どもの活動を見守れるように、子ども図書エリア・プレイルームを挟み込むようにカウンターや見守りベンチを設置する計画としている。



④市民活動スペース（多目的スタジオ）
多目的スタジオ横の共用部は、ホールから出てきた人や、利用を待つ人などが少し腰掛けられるベンチを計画。自動販売機が近くにあるため、展示作品を鑑賞しつつ、飲食しやすいエリアとする。

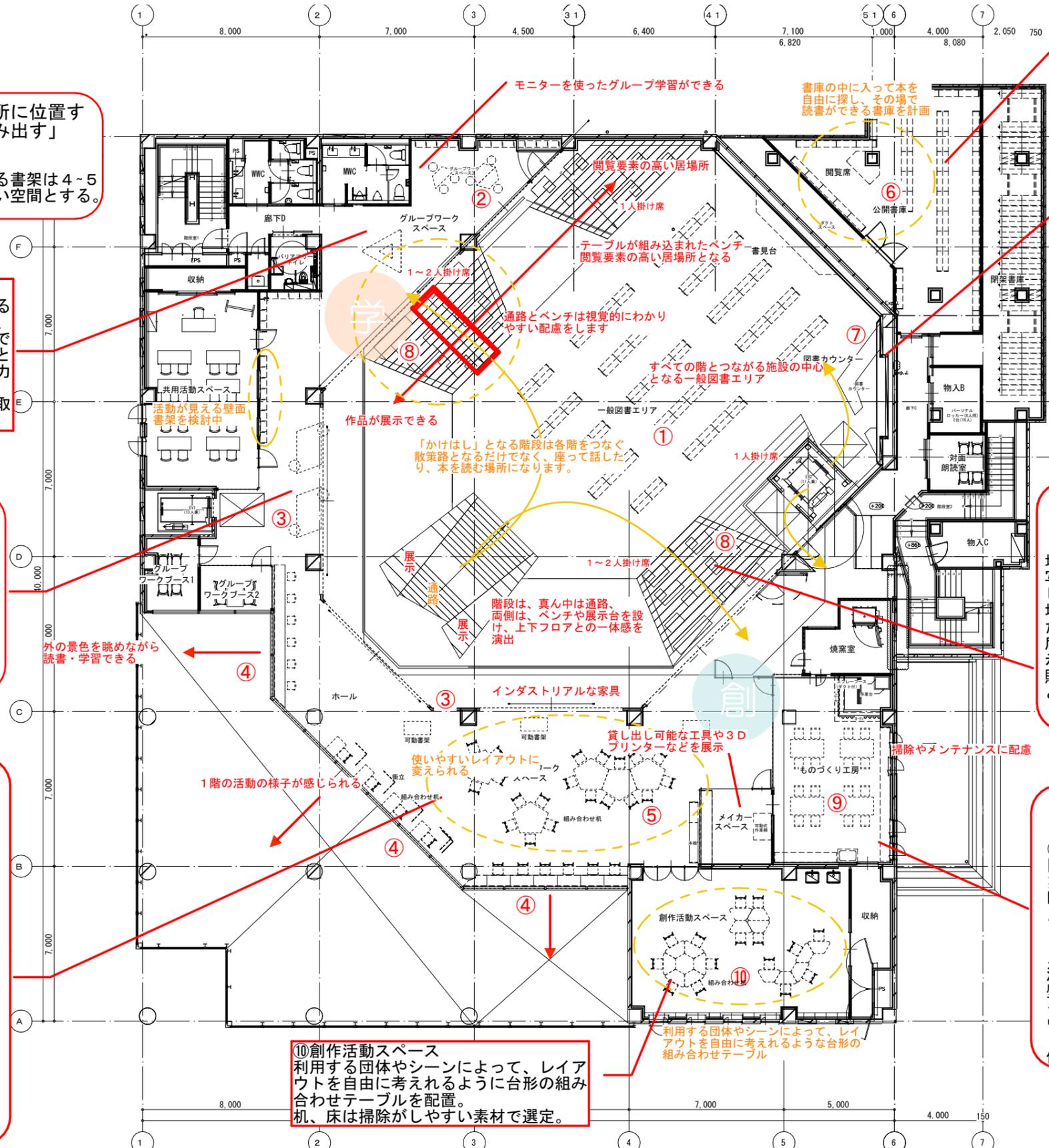
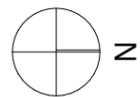
⑤多目的スタジオ
最大200人を収容できる多目的スタジオ。ダンスや楽器、カラオケ大会などの利用を想定。スタッキングチェアを収納するとワンルームの大空間となる。3つに区切って少数向けの防音室としての利用も可。

⑥共用部（交差点）
3つのみちの交差点となる共用部を新着本や展示スペースとして計画。

「親子で育める子ども図書エリア・プレイスペース」
⑦大人がそばで見守りながら、子どもが安心してのびのびと本や遊びにふれ、親子で育める居場所として計画。
共用部への子どもの飛び出しに配慮して、エリアの境界部に親子ベンチを配置。
書架は、木製の低めの棚で視線を通りやすくし、家具は安全性を考慮して、丸みのある家具で統一。書架は木仕上げ、閲覧用のテーブルや椅子は、カラフルなものを選定し、子どもらしい空間として計画。
⑧少し囲われたおこもり空間を配置。ゆっくり読み聞かせやカームスペースとしての活用も想定し、靴を脱いでリラックスできる場所を計画。

← 想定動線
← 視線方向

2階



「すべての階とつながる中心的な場所に位置する中2階が、施設全体の一体感を生み出す」

①中2階（一般図書エリア）
施設の中心となる一般図書エリアに置かれる書架は4-5段程度とし、視線が抜け、圧迫感を感じない空間とする。

②グループワークスペース
モニターを使ったグループ学習ができる居場所。組み合わせ可能な机を配置し、利用者の人数やシーンにあわせて変更でき、組み合わせのパターンが多い形状とし、考える力やコミュニケーション能力を身につける。付近に壁面書架を配置し、学生が手に取りやすい本が並ぶ。

「歩くだけで市民の活動に興味を湧くような〈みち〉空間」

③共用部（共用活動スペース1付近）
みちを歩くひとの興味を惹くために活動が見えるような壁面書架を配置し、活動に関連のある書架を置くことを想定。
本棚の前にサイドテーブル付きのソファを置き、気軽に手に取って読めるよう計画。

「自由な活動を後押しするフレキシブルな共用スペース」

④共用部（吹き抜け付近）
1階と吹き抜けでつながり、1階の活動と外の景色を感じられる空間を活かして、ゆったりくつろぎながら本を読めるソファ、友達とおしゃべりできる組み合わせソファ一人で集中して学習できる閲覧カウンターを配置。

⑤共用部（メイカースペース付近）
広がりのある空間を活かして、シーンや気分によって使いやすいレイアウトに変えられる組み合わせ可能な机を配置。

みち沿いには、DIYやものづくりに関連する本や雑誌が飾られた可動書架を配置。インダストリアル（工業的）な家具を検討。書架の周りで立ち話したり、イベント時は受付カウンターとして使うことを想定。

⑩創作活動スペース
利用する団体やシーンによって、レイアウトを自由に考えられるように台形の組み合わせテーブルを配置。机、床は掃除がしやすい素材で選定。

⑥公開書庫
書庫の中に入って本を自由に探し、その場で読書ができる書庫を計画

⑦図書カウンター
エレベーターを上がってすぐの分かりやすい場所に配置

「まちを散策するようなフロアめぐり」

⑧中2階（かけはし）
中2階を囲う「かけはし」となる階段は各階とつながる散策路となるだけでなく、座って話したり、本を読む場所となる。

「一体感のある空間を生かした展示で、人の流れを生み出す」

場所と場所を結ぶ一体感のある空間を活かして、写真や本、絵画などの展示ができるような設えとし、人の流れをつくる。場所ごとの特徴を活かし、人通りの少ない奥まったエリアにはサイドテーブルが組み込まれた個人席を、大階段のある人通りの多いエリアには、展示も可能な長めのベンチを設置。賑やかさと落ち着きのグラデーションをつくることで、多種多様な人が共存できる居場所を計画。

「創造性が溢れるラボラトリーエリア」

⑨ものづくり工房
陶芸教室やDIYが行われるものづくり工房の作業机は、作業中に簡単に動かないように配慮。DIY工具を使った工作に適した机を選定。机、床は掃除がしやすい素材で選定

メイカースペース
活動に興味を持ってもらえるよう有効ボードの壁に、貸し出し可能な工具を飾ることを想定。ものづくり工房で使用できる備品を収納できるカウンター棚を配置。3Dプリンターなど大型機器なども見やすい位置に設置して興味をもつきっかけを作る。

← 想定動線
← 視線の方向

2-7. デザイン(外観)

30年超の歴史を後世に引き継ぐため、全く新しい外観ではなく、既存と新しい要素が融合し、地域に馴染むデザインを目指しました。またコスト及び既存の外壁の劣化度(健全度)を鑑み、外壁タイルの多くを——残した計画とします。

南側のアプローチには人々を惹きつける大きな本棚が飛び出し、内部までつながる本棚は、當麻寺の仁王門のように、人々を特別な空間へと迎え入れるゲートの役割となります。また3階には展望室がボックス状に飛び出し、既存建物と対比的に見せることで象徴的な存在となります。

なつかしいようで新しい、この地域ならではのデザインとしました。



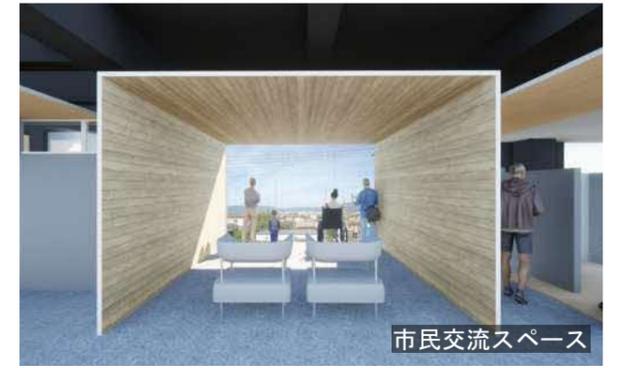
2-8. デザイン(内観)

1階にはあたたかみのある木目、2階はアクティブな印象の金属、3階は落ち着いたトーン仕上げを採用しました。フロアごとに異なる素材を用いることで、立体的な動線を歩くと次々にシーンが移り変わるように感じられ、飽きのこない空間となります。

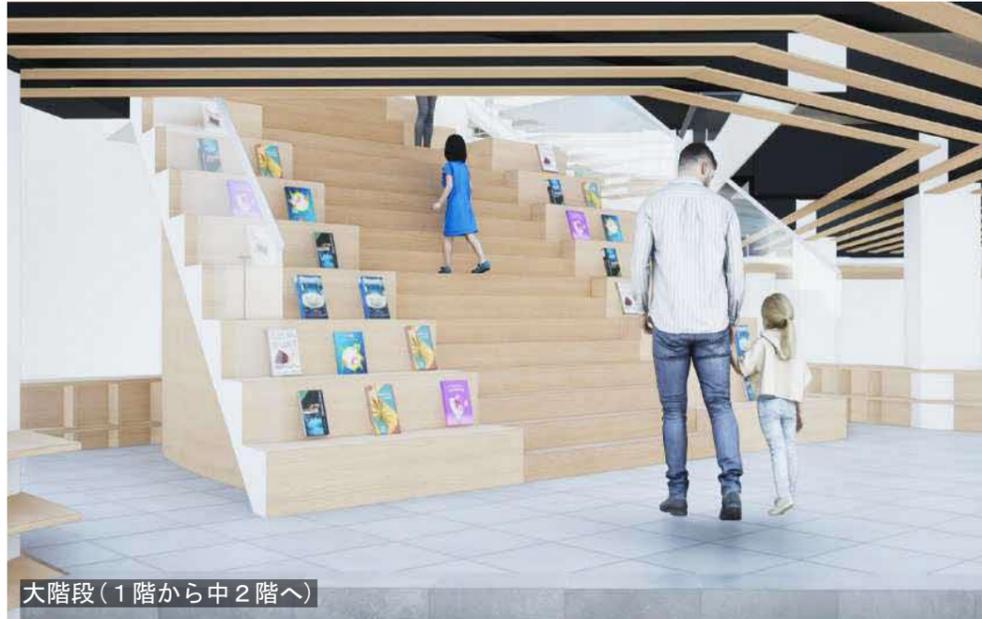
中2階を中心に放射状かつ立体的に動線が伸び、その先に広がる空間は一つとして同じ場所がなく、館内のどこにいても好きな居場所を見つけられる、多様な空間です。



大階段の周囲



市民交流スペース



大階段(1階から中2階へ)



中2階全景



2階から中2階を見る



プレイスペース



おはなしの部屋

2-9. 各ゾーンの空間イメージ及びサービスイメージ

各ゾーンの空間イメージと基本方針に基づく特徴的サービスイメージは、以下のとおりです。

(1) 「迎」ゾーン

まちに住む皆が気軽に訪れたいような、居心地の良い空間を目指し、様々なヒト・モノ・コトを迎えます。誰もが区別されることなく、心地よく滞在できる、ひらかれた場となるよう、人と人、人と施設の新たな縁をむすびます。



空間コンセプト

人々を迎え入れるゲート書架と吹き抜けのある開放感のある空間で、一緒にお茶をしたり、つつい長話をしたり、友達や子どもと気軽につどい、井戸端会議が楽しめる、ホッとする場を目指しています。

主要な書架スペースの例

- ・ 総合案内カウンター
- ・ 大階段
- ・ ブラウジングコーナー

飲食ができるスペース・本棚ベンチ・ユニバーサルデザインへの配慮

サービス・活動のイメージの例

サービス・活動事例	部屋や閲覧席の予約・インフォメーション	パパ・ママの交流
サービス・活動内容	施設の予約や利用方法の説明	子どもを見守りながら保護者同士がつながるきっかけを職員が声かけでサポート
主な対象	施設の利用者	地域の子育て世代・孫を連れた祖父母
とき	常時	常時・イベント前後
場所	総合案内・デジタルサイネージ	本棚ベンチ

(2) 「活」ゾーン

可変性や防音設備に配慮し、自由な活動で活力あふれる様子が感じられる場とします。一体感と開放感が同時に感じられる2階の吹き抜けからは、階下の子どもたちの様子がうかがえ、各部屋の窓からは、活動の様子が垣間見えるなど、館内全体が見渡せ、みんなの活力が感じられるつくりになっています。



多目的スタジオ家具のイメージ

空間コンセプト

ホールが使いやすい大きさの多目的スタジオになり、学ぶ、聴く、奏でる、動く！いろんなことに利用できます。大空間を間仕切りで、ちょうどいい大きさの3つの部屋に分けることもできます。

主要な配置スペースの例

- ・ 多目的スタジオ
- ・ キッチンスペース

歌やダンスが楽しめるスタジオ・カフェスペース・受援施設としての活用

サービス・活動のイメージの例

サービス・活動事例	パブリックビューイング	親子クッキングチャレンジ
サービス・活動内容	複合施設や市内で行われるイベントのアーカイブの鑑賞	絵本に出てくるお菓子や料理の再現に挑戦して試食
主な対象	イベントに興味のある人・立ち寄った人	料理好きの親子
とき	イベント開催時・開催後	任意
場所	多目的スタジオ	キッチンスペース 市民交流スペース

(3) 「育」ゾーン

遊びながら学び、学びながら遊ぶ教育アプローチは「プレイフル・ラーニング」と呼ばれます。子ども図書エリアとプレイスペースを中心に、未来を担う子どもたちが、今までよりも使いやすくなった施設でいきいきと楽しみながら学び、まちの大人たちみんなで育める空間を実現します。



空間コンセプト

小さな子ども連れでも楽しめる子どもの図書スペースでは、本が見つけやすく、声に出して読むことも可能です。室内プレイスペースでは天気を気にせず安全に遊べ、パパやママも安心です。

主要な配置スペースの例

- ・子ども図書エリア
- ・おはなしのへや
- ・プレイルーム

子ども図書の充実・雨でも遊べるプレイスペース・かわいなおはなしの部屋

サービス・活動のイメージの例

サービス・活動事例	ブックスタートサポート	図書館に行くことが楽しみになる
サービス・活動内容	読書で子育てを豊かにする方法をサポート	遊びながら学び、学びながら遊ぶことが成長の架け橋に
主な対象	はじめて絵本に触れる子どもたち	まだ本に興味がない子どもたち
とき	任意	常時
場所	おはなしの部屋	プレイスペース こども図書エリア

(4) 「学」ゾーン

学生たちの居場所について改めて考え、新たな気づきや仲間・まちとのつながりが得られる場を新設します。読書をはじめ多様なメディアに触れるための環境を整え、仲間とともにコミュニケーションを図りつつ、自分の進路や表現等、「自分軸」が見つけれられる場所づくりを目指します。



空間コンセプト

リラックスできる席や友達と自習できる席、絵本に囲まれた部屋など、その日の気分で自分の特等席が選べる、いろんな居場所を備えた、明るく開放的な図書館ができます。

主要な配置スペースの例

- ・グループワークスペース
- ・共同活動スペース
- ・閲覧カウンター

仲間のできるグループワークスペース・自主学習のできる席・図書館との連携

サービス・活動のイメージの例

サービス・活動事例	校外クラブ活動コンテスト	放課後まちづくり
サービス・活動内容	他校の学生同士が集まる部活動のコンテスト	地元の学生が主体となった地域支援活動
主な対象	頑張っている活動や仲間を輪を広げたい学生	葛城市が好きな学生
とき	平日夜・休日	平日夜・休日
場所	館内の各所	グループ学習スペース

(5) 「創」ゾーン

生活をいっそう豊かにする創作や芸術活動を身近に感じ、活動を通じて様々な人が交わることを支えます。学んだり、つくったり、発表したり、自由な発想でやってみよう！が実現できる市民活動エリアとして、活動を継続的に発展させていくことができる運営を目指します。



空間コンセプト

ものづくり工房やキッチンスペース等のみんなで使える部屋があり、メーカースペースには「めずらしい機械や工作道具」が並びます。人との出会いや交流が、新たな価値を創る「ひろば」機能の充実を目指します。

主要な配置スペースの例

- ・ものづくり工房
- ・メイカースペース
- ・創作活動スペース

DIY工具や創作用機械の貸し出し・作品の展示スペース・グループワーク席

サービス・活動のイメージの例

サービス・活動事例	出張ワークショップ	オフラインミーティング
サービス・活動内容	地元のプロフェッショナルが講師となるワークショップ	共通の趣味を持った市民が主催する集まり
主な対象	活動に興味のある人・ステップアップしたい人	読書にハマりたい人・リフレッシュしたい人
とき	任意	任意
場所	ものづくり工房 創作活動スペース	共用活動スペース 市民交流スペース

(6) 「緩」ゾーン

みんなの憩いの場として、静かに読書できるスペースのほか、共用スペースでは友達や子どもとおしゃべりや飲食ができるようになります。まちの大人たちが普段とは異なる時間の流れを感じられる、居心地の良い場とします。



空間コンセプト

たくさんのたくさんの手続きが一度にできる総合窓口に加え、子どもに関連する相談窓口が集約されるので、行政サービスも効率よく、便利に。証明書は1階にマルチコピー機を設置するので、総合窓口に行かなくても発行が可能です。近くに職員がいるので、使い方を聞きながら操作できます。

主要な配置スペースの例

- ・市民交流スペース
- ・展望テラス
- ・たたみスペース
- ・静かなスペース

景色も楽しめる市民交流スペース・くつろげるたたみスペース・静かなスペース

サービス・活動のイメージの例

サービス・活動事例	作品ギャラリー	没入サポート
サービス・活動内容	複合施設の活動で制作した作品の展示と鑑賞	気分やタイミングに応じた本を司書がおすすめ
主な対象	活動成果を共有したい人 創作に興味のある人	読書にハマりたい人 リフレッシュしたい人
とき	常時	常時
場所	市民交流スペース たたみスペース	多様な閲覧席 図書カウンター

2-10. 音響計画

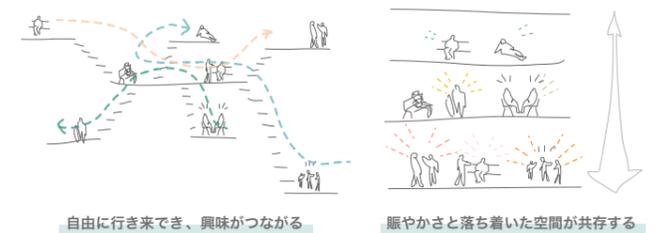
【曼陀羅のような音環境】

比較的にぎやかな空間となる1階から、落ち着いた空間となる3階にかけて、上に行くほど徐々に音環境が穏やかになるよう音のグラデーションに配慮しました。館内の各所では、森の音などの「自然音」による「BGM」を取り入れ、自然音が雑音を包み込む「音響効果」を活用します。

国宝の「當麻曼陀羅」が持つ、円環的なパターンや幾何学的な配置が絶えず変化しながら全体として調和を保つイメージを館内の音環境に置き換えます。自然のリズムにより、時には一部の音が他の音を包み込みながら全体としてバランスが保たれ、利用者は自然の美しさや統一感を感じながら、心地よく滞在ができる空間となります。

館内に入ると、葛城山麓の森に流れる小川のせせらぎが穏やかに流れる音、葉っぱがそよ風に揺れる音、鳥のさえずりや虫のさざめき、時折降り出す雨の音が聞こえます。歩を進めるとこれら一つ一つが順に重なり、段々とメロディーを織りなします。そこに通りかかる人々の会話や笑い声、子どもたちの足音、冊子のページをめくる音がリズムに重なり、一体となって、生き生きとした自然の音楽が奏でられます。

- 1階：外からの騒音や子ども達の声など、都市部分での日常音と館内の自然音が混ざること都市から自然への変化を演出
- 2階：下からの賑やかな音が薄っすらと聞こえながらも自然音がメインとなるような音のバランスを演出
- 3階：静か過ぎる環境での張り詰めた緊張感ではなく自然音と静寂のバランスを意識した空間を演出



自由に行き来でき、興味につながる

賑やかさと落ち着いた空間が共存する

(7) 「窓」ゾーン

現在の當麻庁舎総合窓口と教育委員会、子ども未来創造部が相談窓口を集約し、眺めの良いゆったりとしたスペースで、落ち着いて手続きができる場となります。災害時には支援物資の受け渡し場所としても、安心・安全な生活をサポートします。



空間コンセプト

たくさんの手続きが一度にできる総合窓口に加え、子どもに関連する相談窓口が集約されるので、行政サービスも効率よく、便利に。証明書は1階にマルチコピー機を設置するので、総合窓口に行かなくても発行が可能です。近くに職員がいるので、使い方を聞きながら操作できます。

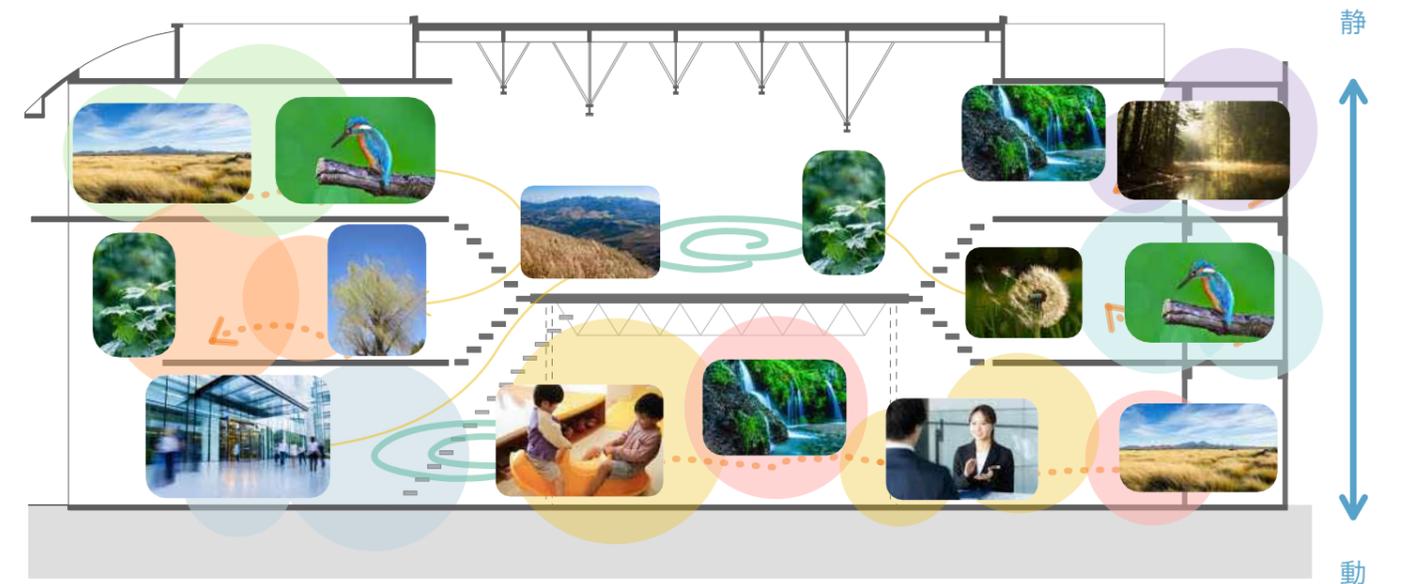
主要な配置スペースの例

- ・こども未来創造部
- ・教育部
- ・かつらぎギャラリー

総合窓口・半個室の相談ブース・図書館に隣接した眺めの良い待合

サービス・活動のイメージの例

サービス・活動事例	作品ギャラリー	市職員も図書館を利用
サービス・活動内容	窓口の待ち時間に、複合施設の活動で制作された作品を鑑賞	市職員も業務の調べものや作業後に図書館の本をフル活用
主な対象	活動成果を共有したい人 創作に興味のある人	業務で資料調査が必要な職員
とき	常時	常時
場所	市民交流スペース たたみスペース	市民交流スペース たたみスペース



3-1. 管理・運営計画

1. 管理・運営の基本理念

場をひらき、人をむすび、共にまちを育む、私たちのひろば

本施設は、市民の生涯学習推進の拠点であると同時に、学習・文化・子育て・まちづくりを中心とした、市民活動の拠点でもあります。めざすは、市民・企業・ボランティア・NPO等、そして市職員が共に地域の価値を創造する、「地域共創のひろば」です。

新たな魅力ある施設とそのサービスが、これまで公共施設を利用している人々に加えて、これまで公共施設の利用がなかった人々や未来を担う子どもたちをも惹きつけ、わくわくするような多様な出会いや発見（セレンディピティ）、そして活動や交流が生まれることを期待しています。

なお、本計画は、開館時点においてすべて実施されることを想定するものではありません。開館後を含む継続的な取り組みによって将来的に実現していくことを想定しています。

2. 既存の計画等

(1) (仮称) 当麻複合施設整備基本方針（令和4年7月策定）

当麻文化会館を全面改修し、庁舎、図書館、生涯学習部門を複合化する方針を策定。

(2) (仮称) 当麻複合施設整備基本計画（令和5年6月策定）

基本方針に基づき、施設の具体的な整備計画を策定。

(3) (仮称) 当麻複合施設管理・運営基本方針（令和5年10月策定）

当麻複合施設に内包される各機能が効果を最大限に発揮し続けることができるよう、施設運営や施設管理の方向性を示すために策定。

(4) (仮称) 当麻複合施設管理・運営計画（前編）（令和6年3月策定）

当麻複合施設の管理・運営に関する基本方針を踏まえ、施設の一体的な管理・運営方法を検討し、具体的な計画を策定。

(5) (仮称) 当麻複合施設基本設計（令和6年7月）

当麻文化会館の全面改修により、庁舎、図書館、生涯学習部門を複合化する施設の基本設計を策定。

3. 本施設の整備及び管理運営の基本的な考え方

(1) 出会い、交流、新たな市民活動の創出

本施設では、出会いや発見と交流、そして多様な市民活動の創出を促すために、図書館資料を人と人をむすぶ結節点として活用することをはじめ、様々なしかけを工夫します。

(2) 多様な市民活動の継続を支える施設としての2つの役割

本施設では、「直接活動をする場としての役割」に加え、本施設のみならず、民間施設も含めた「他の施設でも活動が継続できるように支える役割」を持たせます。2つの役割を同時に担うことで、従来の利用者だけでなく、より多くの市民が本施設で活動のきっかけを得たり、活動の場として利用したりすることを可能とします。

(3) 「できる」ことが多い滞在型施設

奈良県内では先進的な取り組みとして、コーヒーを飲みながらおしゃべりができる禁止事項の少ない図書館や、天候に関わらず利用できるプレイスペースを備え、子どもたちがのびのびと遊ぶことや、大人たちが思い思いのスタイルで過ごすことができる滞在型施設とします。

(4) 本施設だけでなく葛城市全域での検討

本施設の担う役割を葛城市全域にかかわるものと考え、市内他施設との役割分担も同時に整理して検討することで、全市的な視野で捉えればこれまで以上の効果を実現することを目指します。

(5) 継続的な活動を可能とする透明性の高い運用

本施設のサービスによって、多くの活動を継続的に支え続けるためには、施設の維持やサービスに要する費用を明らかにし、利用基準や利用者の負担について明確化することも必要となります。それらにより、市民の様々な活動をつなぎ、支え続けるしくみをもつ施設とします。

(6) 地域共創型へ進化する行政活動の拠点

庁舎機能との複合によって、行政サービスを市民にとってより身近なものにするだけではありません。本施設で働く市職員には、まちのコーディネーターやファシリテーターとしての役割が求められます。本施設を、行政活動が市民・企業・ボランティア・NPO等と共に魅力ある地域の創造を支えるものへ進化する拠点とします。

4. 施設のあり方【本施設がめざす3つのビジョン】

上記を踏まえ、本施設では以下の3つをめざすビジョンとして設定します。ビジョンの主演は施設ではなく市民です。市の限られた資源を最大限に活用することで、本施設はそれらのビジョンを追求し、実現していくための拠点施設となります。

(1) 場ひらき ～市民が「支え合う」～

市民の自主的な活動は、市民同士がお互いの「やってみたい!」「夢を叶えたい!」という願いを支え合う活動ともいえます。より多くの市民が新たな活動をはじめたり、活動に参加したりすることを促すオープンな場をひらきます。

(2) 縁むすび ～市民が「つながり合う」～

これまでの活動への新たな参加者があらわれたり、活動同士がつながったり、まったく新しい活動が生まれたりすることで、市民同士が活動によってつながり合うための拠点となります。本施設内で直接活動ができない場合も、市内各施設をはじめとした活動につなげ、継続できる環境をつくります。

(3) まち育て ～市民が「育ち・育て合う」～

市民がお互いの活動から学び合い、育ち・育て合うことで、まちの更なる魅力向上、すなわち「まち育て」につながります。特に、若者や子育て世代に向けた活動が生まれる拠点とすることで「ここに暮らしたい。応援したい。いつかは帰りたい」といった意識が育まれることにつながります。

5. 本施設の主な機能

本施設は、管理運営方針の下、市民の学習・文化・子育て・まちづくりを中心とした活動の場として、中でも<「創る」と「交わる」を支える機能>を中心とした、3つの機能を基本として運営します。

(1) 「創る」と「交わる」を支える機能（公民館・文化会館事業を継承）

市民が様々な活動を通じて交わり、新たな価値を創ることを支えます。また、それらの活動が継続的に発展していくことができるしかけを工夫します。地域内外の人々の出会いと交流を通じて多様な活動が生まれる「ひろば」の機能も充実させます。

(2) 「知る」と「読む」を支える機能（図書館事業を継承）

読書をはじめ、情報源となる多様なメディアに触れるための環境を整え、市民の様々な活動に役立つ知識を得る（知る）ために、市民ニーズに対応した資料・情報の収集や提供を行います。地域の活動を記録し、共有する機能も持たせます。

(3) 「遊ぶ」と「学ぶ」を支える機能（公民館・文化会館・図書館事業を継承）

学習に遊びを取り入れて楽しみながら学ぶ教育アプローチは「プレイフル・ラーニング（遊びを通じた学び）」と呼ばれます。公民館・文化会館・図書館はすべて、市民の「遊び（レクリエーション）」と「学び」を結びつける場として機能してきました。子どもから大人まで、遊びながら学び、学びながら遊ぶ機能をさらに発展させます。

6. “むすんで・ひらいて”機能融合型施設をめざす

本施設は、前節で示した機能を一体的に連携・融合させた「機能融合型施設」として整備します。

誰もが気軽に心地よく滞在できる、ひらかれた場となるような運営を行うことで、人と人、人と施設の新たな縁がむすばれ、新たな活動が生まれます。このような施設は、コミュニティの形成に欠かせないしかけです。機能融合を活かすため、以下のようなしくみによって運営を支えます。

(1) 施設全体のマーケティングと情報発信

施設の諸機能が、地域住民によく知られ、実際に利用されると同時に、そのニーズや利用状況が施設の運営に反映され、運営の改善や新しいサービスの開発、ファンづくりにつながるマーケティングのしくみをつくります。

(2) 運営ボランティアの育成と、協働しやすいしくみづくり

施設全体にかかわる運営ボランティアを募集して活動の拡大を図り、この施設のボランティアとなることが地域住民の誇りと感じられるように工夫します。

(3) 地域にひらかれ、人をむすぶ地域共創型行政のインキュベータ

本施設は、行政が地域にひらかれ、人をむすぶ地域共創型に進化していくための、市職員の稽古場であり、実験場ともなります。庁舎機能だけでなく、施設全体を活かし、コーディネーターやファシリテーターとしての能力を実践で鍛え、地域共創型行政の新たなチャレンジを実験し、記録し、発信する場とします。

7. 地域コミュニティを育むしくみ

地域住民が運営の主体となれるよう関わりを続けることをサポートし、地域コミュニティを育むしくみを整えます。

(1) まちひらきアーカイブ

市民活動から生まれる知識・情報をアーカイブとして構築し、まちの魅力を公開（ひらき）ます。住民の電子出版や自主アーカイブ構築も支えます。

(2) むすびメディア

図書等の資料が施設内のどこでも使える環境を整え、豊富な資料を結節点として活かした多彩な活動をくり広げることで、人と人をむすぶ機能を引き出します。

(3) まちの匠（たくみ）

地域にとっていちばんの宝である知恵と技をもつ市民を「まちの匠」として登録し、本施設のセミナー講師等として活躍するしかけを工夫します。

(4) まちの縁むすび

利用者に本施設の応援団となってもらい、口コミによるPRやボランティア活動を通じ、市民と施設、市民同士の縁むすびに参画していただきます。

8. 「創る」と「交わる」を支える機能（市民活動センター機能）

(1) 概要

- 貸し館を中心に、様々な自主的活動の場を提供
- セミナー、ワークショップ、主催公演等、新たな活動のきっかけを提供
- フェス、マルシェ、トークイベント等、交流と会話と創作発表の場を提供

(2) 運営サービス方針

- 貸し館・PR協力・「まちの匠」紹介・情報提供を中心とした連携や協働のきっかけづくり

市民や団体が気軽に活動の第一歩を踏み出せるよう、貸し館サービスをはじめとした基盤的支援を充実させます。利用申請手続きのシステム対応などを検討し、幅広い世代や分野の利用ニーズに応えます。

また、広報媒体やSNSなどを活用したPR協力も積極的に行い、活動内容や成果の発信を支援し、多様な取り組みがより多くの市民に届けるとともに、利用団体同士が互いの取り組みを知り合える機会を設け、連携や協働のきっかけづくりにも寄与していきます。

- 新しい活動の立ち上げ、多世代間交流、後継者育成、「縁むすび」を重視した仕組みづくり

様々な世代の市民が気軽に交わり、新しい発想や協働の芽が生まれるように多世代間交流の仕組みづくりを推進します。子育て世代と高齢者、学生と社会人など、多様な層が互いに学び合う場を企画・開催し、それぞれの得意分野や経験を活かせる協働プロジェクトを検討します。

また、交流イベントを通じて生まれたアイデアを施設や地域社会の取り組みに還元し、新たな市民活動の立ち上げや継続を後押しする体制を整え、市民同士が自然に連携を深められる環境を整備していきます。

- 個人と団体、団体と団体、団体と他施設等の仲介を中心とした「縁むすび」

市民活動を通して多様な出会いが生まれるよう、個人や団体、さらには他の公共施設や民間スペースとのつながりを促進する「縁むすび」に力を入れます。新たに活動を始めたい市民が先行事例を持つ団体と交流したり、協賛やサポートを求める団体が近隣の事業者と結びついたりする機会を設け、それぞれの強みを掛け合わせた相乗効果を狙います。

さらに、相談やマッチングを円滑に行うための情報共有や連絡体制を整備し、地域全体で生き生きとした市民活動を育む環境を創出していきます。

- 新規活動企画、「まちの匠」育成、ファシリテーター育成等の研修も実施

地域の魅力を掘り起こし、新しい活動や事業を生み出すためには、人材の育成と知見の共有が欠かせません。企画運営のノウハウを学ぶ研修を定期的で開催し、「まちの匠」やファシリテーターをはじめ、多様な人材が互いに成長できる環境づくりを目指します。

初めて事業を立ち上げる団体向けに立案から広報・資金調達までを学べるプログラムや、世代を超えた後継者育成を視野に入れたリーダーシップ研修などにより、地域社会全体の学習意欲と活動水準を底上げしていきます。

9. 「知る」と「読む」を支える機能（図書館機能）

(1) 概要

- 資料の閲覧・貸出や調査相談・読書案内といった基礎的サービスを提供
- 障がいの有無や世代に関わらず、多様な利用方法に応じたサービスを提供
- 子どもたちが未来を拓くための多様な選択肢を発見する手掛かりを提供

(2) 運営サービス方針

- **人と人、場と場をつなぐ「むすび目」としての資料の整理や展示方法の工夫**
図書館内の本や資料の並べ方や展示方法を工夫することで、人と人が出会い、新しい発見が生まれるきっかけを作ります。本だけでなく、関連イベントの情報も展示し、学びのつながりを広げます。共通の関心や課題をもつ人同士をつなぎ、ゆるやかなコミュニティをつくるツールとして、本の可能性を最大限に引き出します。
- **新たな利用者層を開拓するための学校をはじめ多様な機関・団体との連携**
地域の学校や市内外の団体と協力して、読書や学習に興味を持つきっかけを提供します。例えば、出張授業やワークショップを通じて子どもたちを図書館に招く試みが考えられます。他にも、障がい者、若者、子育て世代など、従来、図書館を利用しにくかった人たちとかかわりをもつ機関・団体と連携することで、それらの人たちにとっても図書館を身近なものにします。
- **子どもたちが「好き」を見つけ、追求することへの支援**
子どもたちが進路を自分ごととして考えられるようになるためには、「好き」を見つけ、追求できる環境を整えることが重要です。興味のあるテーマを見つけられるように、多様なジャンルの本や資料を揃えます。興味を深められるイベントや体験型展示を開催し、好奇心を応援します。
- **子育て世代が親子で遊び、学び、読むことに自然と誘われるしかけづくり**
親子で楽しめるスペースや絵本コーナーを充実させ、気軽に訪れやすい雰囲気をつくります。また、従来のお話し会に加え、親子連れや子ども向け、子育て中の親向けのワークショップ、読書会等を工夫します。小さい子ども連れの親たちが安心して子どもを連れてこられるような環境を整備します。
- **中・高・大学生が、自分の進路や表現等、「自分軸」を見つける場づくり**
子ども時代の「好き」や得意をベースに、自分の人生の軸をつくり表現できるようにするために、読書や対話の経験を重ねることが欠かせません。学びのきっかけを提供するだけでなく、自分の考えを深められるような資料や展示を用意します。進路や趣味について考えるセミナーも企画します。
- **活動する市民への課題の発見や解決のヒントと励ましの提供**
図書館を地域活動の拠点とし、社会課題について学べる資料や事例を展示します。地域課題をテーマにしたイベントも開催し、市民同士の交流と対話を促進します。活動記録のアーカイブ化等と併せ、活動の「見える」化にも取り組みます。

- **障がいの有無に関わらず市民が「読書ならあそこ」と最初に思えるサービス**
点字図書、大活字図書、LLブック、録音図書など、誰もが使いやすい資料の充実を図ります。また、館内のバリアフリー設備を充実させ、快適な環境を提供します。
- **市民活動の記録とアーカイブ化**
本施設に関わる活動をはじめ、地域の活動や出来事を、市民や市内の団体・機関と連携しながら記録し、未来に残します。デジタル化した資料を通じて、多くの人がいつでも閲覧・活用できる仕組みを整備します。
- **中・高・大学生による図書館の企画・運営への参画**
若い世代が図書館運営に関わる機会を作り、自分たちの手で魅力的な図書館づくりに参加できる環境を整えます。例えば、イベントの企画・運営、利用のルールの検討、資料の選定を一緒に行います。
- **新庄図書館と一体となり、全館的視野・中長期の視点を持った運営**
新庄図書館と連携し、蔵書の分担収集・交換やイベントの共同開催などを通じて、地域全体の図書館サービスの向上を目指します。全体の視点で、それぞれの独自性を維持しつつも、資料や人材を効率的に活用します。

(3) コレクション及び配架計画

- **新庄図書館との一体的な蔵書構築（コレクション形成）**
新庄図書館と本施設が緊密に連携して、図書をはじめとする資料の分担収集と分担保存を行うことを通じ、葛城市立図書館としての一体的な蔵書の構築（コレクション形成）を図ります。
- **子どもの本を充実させることを優先**
子どもたちが楽しみながら読書に親しめるように、絵本や児童書を中心に質の高い蔵書を揃えます。成長段階に応じた人気の作品を選び、家族で訪れやすい環境を作ります。
- **大人向けの本では従来にくらべ子育て世代向けの入門書・実用書を重視**
子育てや日常生活に役立つ実用書やガイドブックを増やします。初心者でも読みやすい内容の本を充実させ、幅広い世代が利用しやすい蔵書構成を目指します。
- **読書のバリアフリーを意識した本以外のメディアの導入**
電子書籍や録音図書など、多様な形式の資料を用意し、誰もが快適に読書を楽しめる環境を整えます。読書に障がいがある人が利用しやすい資料の積極的な導入に努めます。

■ 司馬遼太郎関係図書や地域資料に対して引き続けたの重視

地域の歴史や文化を学べる資料を十分に揃え、地域に住む人々が郷土への理解を深められるようにします。特に、司馬遼太郎に関する書籍の重点的な収集・展示や相撲関連の展示など実施します。

■ 利用の量を左右する資料の鮮度維持のため、選書の質と資料費の確保

最新のトピックや人気のある本を優先的に収集します。選書に利用者の声を反映する方法を工夫し、常に新鮮な蔵書を提供できるよう努力します。またそのために必要な資料費の確保に努めます。

■ 書店等の他施設も参考にした手に取りたくなる配架方法の導入

印象的なディスプレイやテーマ別の棚を設けることで、利用者が思わず手に取りたくなるような魅力的な配置を工夫します。書店等のような様々な人たちにとって親しみやすい空間を目指します。

10. 「遊ぶ」と「学ぶ」を支える機能(地域共創機能)

(1) 概要

■ 子どもの遊び場を始め全館で市民、そして特に子どもたちの遊びの環境整備

「雨が降っても、あそこで遊べる!」。全館を通じて、特に子どもたちが安心して遊べる、したがって保護者も安心できるスペースを整備します。屋内外の遊具で、天候に左右されず遊べる環境を提供します。保護者が見守りやすい親子向けスペースも設置し、親子の絆を深める機会を創出します。

■ 子どもも大人も遊びながら学び、学びながら遊ぶことを通じ、好奇心や冒険心を刺激するしかけの全館での用意

プレイフル・ラーニング(遊びを通じた学び)の考え方に基づき、体験型プログラムを実施します。図書館や学習スペースと連携し、ゲームやワークショップを通じて、学びと遊びを自然に結びつける活動を展開し、好奇心や創造性を育みます。

(2) 運営サービス方針

■ 囲碁・将棋から国内外のボードゲーム、eスポーツまで、本気で「遊ぶ」ツールを全館で用意し、ゲーム大会等、普及のためのしかけの工夫

囲碁や将棋などの国内外のボードゲームや、さらには最新のeスポーツまで幅広い遊びを用意することで、世代や国籍を問わず、参加者同士がつながる場を創り出します。大会や体験イベントを定期的で開催し、多世代交流を促進します。遊びを教え合い、学び合う、世代と地域を超えた緩やかなコミュニティづくりにもつなげます。

■ 学校では習わない、そして学校らしくない、でも「学べる」場としてのしかけを整えることによって学校と補い合う役割を担う

学校では十分に得られない、創造的で自由な学びの場を提供します。地域の特性を活かした文化・歴史体験や、現代的なスキルを学ぶワークショップを開催することで、市民の幅広い知識欲を満たし、生涯学習の拠点として機能します。なお、将来のクラブ活動の拠点としても活用できる計画とします。

11. その他の機能

(1) 庁舎機能

■ 総合窓口による効率的な行政サービス提供

一つの窓口で住民票の発行や各種行政手続きなど、多岐にわたる行政サービスを受けられる体制を整え、市民の利便性を向上させます。

■ 子育て支援窓口の充実

職員が図書館のイベントスペースに赴き、声掛けや子育て相談を行うことで、子育て世代とのつながりを深めます。教育委員会やこども未来創造部と連携し、子育て支援の拠点として機能します。

■ 市役所機能の地域密着化

當麻庁舎としての役割を継続しつつ、地域住民の声を反映した柔軟なサービスを提供します。地域イベントへの参加や行政サービスの案内など、住民との接点を強化します。

(2) 防災機能

■ 災害時の防災機能の強化

當麻複合施設は、災害時に地域住民の安全を確保するための受援施設としての機能を備えます。耐震性の向上や非常用電源の設置、多目的スタジオの活用などにより、災害発生時に迅速かつ適切な対応が可能となります。

■ 防災拠点としての機能集約

當麻複合施設は、平常時から防災に関する情報提供や訓練の場として活用されます。地域防災計画に基づき、災害対応の拠点としての役割を果たすため、行政機関や関係団体との連携を強化します。また、防災教育の推進や地域住民の防災意識向上を目的としたイベントやワークショップを定期的で開催し、地域全体の防災力を高めます。

■ 防災設備の充実と環境への配慮

施設内には、非常時に備えた防災設備を充実させるとともに、環境負荷の低減にも配慮した設計を採用します。省エネルギー設備の活用、断熱性能の高い建材の使用など、エコロジー設計を取り入れることで、持続可能な社会の実現に貢献します。これにより、平常時の快適性と非常時の安全性を両立させた施設運営を目指します。

12. 図書館システム等計画

(1) 概要

利便性と効率性を向上させるため、図書館業務と利用者サービスのDXを推進します。最新のICT技術を活用し、地域住民がより快適に利用できる環境を整えます。

(2) 図書館情報システム

これまでの機能に加え、貸出のセルフ化など、効率的な運営を実現します。

(3) 図書館情報システム端末

職員用端末では業務効率化を図り、利用者用端末では直感的に使いやすいインターフェースを提供します。

(4) 座席管理システム

利用者が座席の空き状況をリアルタイムで確認できるシステムの検討等、混雑緩和を図ります。

(5) 貸室予約等管理システム

イベントスペースや会議室の予約をオンラインで行えるシステムの検討等、利用者の利便性を向上させます。

(6) デジタルサイネージ

館内の案内やイベント情報を表示するデジタルサイネージを設置し、視覚的にわかりやすい情報提供を行います。

(7) 利用者用館内インターネット・ネットワーク

Wi-Fi環境を充実させ、利用者が持参したデバイスで快適にインターネットを利用できるようにします。

(8) セキュリティ

利用者情報の保護とネットワークの安全を確保するため、費用対効果の高い対策を導入します。不正アクセス防止や通信の暗号化を実施し、利用者が安心してシステムを利用できる環境を整えます。また、定期的なセキュリティ診断を行い、システムの脆弱性を早期に発見・修正します。

(9) その他

未来のニーズに対応するため、AIを活用したサービスや拡張現実（AR）技術の導入も検討します。

13. 管理運営計画

(1) 組織構成

図書館の運営は、専門職員、非常勤職員、ボランティアからなるチームで構成されます。各役割を明確に分担し、効率的な運営体制を確立します。

(2) 職員の役割

専門職員は資料選定やイベント企画を担い、利用者対応の向上を目指します。非常勤職員やボランティアはカウンター業務や展示の補助を行い、利用者との接点を増やします。

(3) 管理運営形態

指定管理者制度を導入し、地域の特色に合わせた柔軟なサービス提供を実現します。運営の透明性を確保するため、定期的な評価と市民参加の仕組みを導入します。

(4) 開館日・開館時間設定

現在よりも開館日および開館時間を拡大させます。利用者ニーズに応じた時間調整や特別開館日を設けることで、利便性を向上させます。

(5) セキュリティ

館内の防犯カメラや機械警備システム等を検討します。

(6) その他(地球温暖化対策等)

環境負荷を低減するため、館内照明に省エネルギー型LEDを採用し、省エネルギー設計の設備や資源循環型の運営を推進します。